

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

5年、10年先を見据え、社会の変化に臨機応変に対応し、自らの可能性を發揮することができる生徒の育成を目標に、以下にめざす学校像と特につけたい力を示す。

1. 自ら考え、自ら行動できる主体性を育てる学校
【物事に進んで取り組む力】【目標を設定し確実に行動する力】
2. 「学び」から知識を習得し、得た知識を「活用」できる力を育てる学校
【現状を分析し目標や課題を明らかにする力】【課題の解決に向けたプロセスを明らかにし実行する力】
3. 自身を大切にできる心、他者を尊重する心、協力し合える力を育てる学校
【自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力】【自分の意見をわかりやすく伝える力】
4. 生徒が安心して過ごすことのできる学校
【社会のルールや人との約束を守る力】

2 中期的目標（【目標】はいずれも2018→2021）

1 変化する社会に対応する能力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実

- (1) 計画的に学力向上に取り組む枠組みの確立
 - (A) 各学年で行う進路調べなどの進路行事、各考査後の「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。
 - (B) 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。
【目標】生徒向け自己診断「学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答率77%→90%、全国模試の受験者数30%→40%
- (2) 授業改善
 - (C) 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力を育成。
 - (D) 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部教員への授業公開。ICT機器の整備・活用。
【目標】生徒向け自己診断「授業に必要な学力が身に付く」の肯定的回答率85%→90%
- (3) 生徒の進路実現の組織的サポート
 - (E) 夏期集中講座、冬期集中講座の計画的な実施と内容の改善。
【目標】事後アンケートの生徒満足度(98.8%)の数値90%以上維持
 - (F) 生徒の進路希望に合わせた情報の提供と、必要な講習等支援の実施。
 - (G) 総合的な探求(学習)の時間・LHRを活用した自己分析に基づく進路計画の作成と実施
【目標】生徒・保護者向け自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的回答率生徒81%、保護者88%→ともに90%
現役で大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合の増加87%→90%

2 チームで働く力の育成

- (1) 人としての豊かな見識と情操の育成
 - (H) 教育活動全体を通じた豊かな人間性の醸成。
【目標】生徒向け自己診断「生命を大切にできる心や社会ルールを学び人権意識が身に付いた」の肯定的回答率82%→90%
 - (I) 計画的な人権教育の実施。
【目標】3年間で「向和問題」「在日外国人問題」「コミュニケーション」「障がい者問題」「LGBT」「統一応募用紙と違反質問」について学習する機会を設ける
- (2) 基本的な生活習慣の確立と、自主的・自律的な行動を身につけられる生活指導の実施
 - (J) 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成。
【目標】遅刻総数の減少1400回→1000回、生徒向け自己診断「規律を守りモラルある行動をとっている」の肯定的回答率94%→維持
- (3) 学校行事による協調性・協働性の向上
 - (K) 学校行事の運営を通して、自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに何かを成し遂げる難しさ喜びを学ぶ。
【目標】生徒向け自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答率87%→90%

3 学校の魅力の向上

- (1) 豊かな学校生活を支える活動
 - (L) 充実した設備を活用した活発な部活動の持続。
【目標】部活動ガイドラインの遵守、生徒向け自己診断「部活動は楽しく充実している」(今年度より新設)の肯定的回答率→80%以上
 - (M) 生徒会活動の活性化による学校行事や部活動の更なる充実。
【目標】生徒向け自己診断「行事は魅力あるものとなるよう工夫されている」の肯定的回答率68%→90%
 - (N) オーストラリアStルークス高校との連携の強化による、国際化に対する意識の向上。
【目標】留学に参加した生徒の満足度(100%)95%以上を維持
- (2) 困り感を持つ生徒への支援体制の充実
 - (O) 校内における教育相談体制の活用に向けた生徒、保護者への支援体制の周知徹底。
【目標】生徒・保護者向け自己診断「相談しやすい環境が整っている」の肯定的回答率生徒64%、保護者71%→ともに80%
 - (P) SC等の外部人材の活用による教育相談体制と迅速な生徒情報の共有によるサポートの充実。
【目標】中途退学生徒、不登校生徒0をめざす。
- (3) 体育・スポーツの拠点校としての体育科の取り組み
 - (Q) 「スポーツ総合演習」など体育科専門の授業と活発な部活動を通じた、計画力、行動力のあるリーダーの資質を持つ生徒の育成。
【目標】授業アンケート:「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」の肯定率95%超維持
 - (R) 活発な部活動による、将来のトップアスリート・競技指導者等の育成。
【目標】サッカー・ラグビー・女子バレーボール・男女バスケットボール・硬式テニス→近畿大会出場、水泳→インターハイ出場、陸上→インターハイ優勝

4 学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立

- (1) 健全な職場環境の整備
 - (S) 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止。
【目標】教職員向け自己診断「教科内で組織的に授業力向上に取り組んでいる」67%→80%、「学校の改善に向けて積極的に取り組んでいる」68%→80%
 - (T) 業務内容の精選、平準化、効率化。
【目標】時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数を前年度より減少させる。ストレスチェック職場環境評価を前年度より改善する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
学校の教育活動に対する肯定率の3年間の推移 【保護者】①学校生活の充実92%→92%→91% ②学力保障69%→75%→73% ③生徒指導89%→88%→86% ④進路指導87%→88%→82% ⑤教育相談75%→71%→73% ⑥いじめ79%→79%→80% 【生徒】①学校生活の充実87%→85%→87% ②学力保障85%→85%→86% ③生徒指導71%→68%→66% ④進路指導80%→81%→81% ⑤教育相談66%→64%→65% ⑥いじめ77%→77%→85% 【教職員】①学校生活の充実91%→92%→96% ②学力保障68%→92%→94% ③生徒指導74%→79%→83% ④進路指導77%→82%→83% ⑤教育相談62%→84%→93% ⑥いじめ78%→89%→94% ⑦教育活動改善49%→67%→70% ⑧学校改善43%→68%→74% ※保護者：進路指導に対する肯定率が少し下がったのは、大学入試改革に大きな方針変更があったりした影響か。 生徒：生徒指導・進路指導の肯定率が漸減している。いじめ対応で大きく向上した。 教職員：特に教育相談やいじめ、学校改善で肯定率が大きく向上した。	第1回 令和元年5月30日(木) ・「振り返りシート」は、生徒自身がどう学ぶのかという点で活用が期待される。生徒が自らの課題を具体化するための手法を期待する。 ・行事満足度の向上に努められたい。
	第2回 令和元年10月30日(水) ・大学入試制度の変更への対応に関して、論理的思考力の育成に努められたい。 ・授業参観(英国数)で私語・寝ている生徒がいなかった。すばらしい。 ・働き方改革について、昨年に比べて超過勤務の総時間が減っている。
	第3回 令和2年1月30日(木) ・この2年間で教職員の意識が随分と変化した。その成果の生徒・保護者への波及を期待している。 ・ICT環境は整備されたので、使い方や教材で困っている教員のサポートを工夫されたい。 ・遅刻減少への取組みに期待している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 変化する社会に対応する能力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実	(1) 計画的に学力向上に取り組む枠組みの確立	<p>Ⓐ 各学年で行う進路調べなどの進路行事、各考査後の「振り返りシート」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。</p> <p>Ⓑ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。</p>	<p>Ⓐ Ⓑ 生徒向け自己診断「学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答率 80% (H30:77%)、全国模試の受験者数 35% (H30:30%)</p>	「学習に意欲的に取り組んでいる」78% (△) 全国模試の受験者数 47% (◎)
	(2) 授業改善	<p>Ⓒ 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力を育成。</p> <p>Ⓓ 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部教員への授業公開。ICT 機器の整備・活用。</p>	<p>Ⓒ Ⓓ 生徒向け自己診断「授業で必要な学力が身に付く」の肯定的回答率 90% (H30:85%)</p>	「授業で必要な学力が身に付く」86% (△)
	(3) 生徒の進路実現の組織的サポート	<p>Ⓔ 夏期集中講座、冬期集中講座の計画的な実施。</p> <p>Ⓕ 生徒の進路希望に合わせた情報の提供と、必要な講習等支援の実施。</p> <p>Ⓖ 総合的な探求(学習)の時間・LHR を活用した自己分析に基づく進路計画の作成と実施。</p>	<p>Ⓔ 事後アンケートの生徒満足度 90%以上維持 (H30:98.8%)</p> <p>Ⓕ Ⓖ 生徒・保護者向け自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的回答率生徒 (H30:81%)、保護者 (H30:88%) とともに 90%以上 現役で大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合 90% (H30:88%)</p>	事後アンケートの生徒満足度 98% (◎) 「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」生徒 81%、保護者 82% (△) 現役大学合格率 85% (△)
2 チームで働く力の育成	(1) 人としての豊かな見識と情操の育成	<p>Ⓗ 教育活動全体を通じた豊かな人間性の醸成。</p> <p>Ⓖ 計画的な人権教育の実施。</p>	<p>Ⓗ 生徒向け自己診断「生命を大切にしている心や社会ルールを学び人権意識が身に付いた」の肯定的回答率 85% (H30:82%)</p> <p>Ⓖ 3年間で「同和問題」「在日外国人問題」「コミュニケーション」「障がい者問題」「LGBT」「統一応募用紙と違反質問」について学習する。</p>	「生命を大切にしている心や社会ルールを学び人権意識が身に付いた」86% (◎) 3年生の「同和問題」を「拉致問題」に変更して実施。他は実施 (○)
	(2) 基本的な生活習慣の確立と、自主的・自律的な行動を身につけられる生活指導の実施	<p>Ⓙ 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成。</p>	<p>Ⓙ 遅刻総数 1000 回 (H30:1400 回)。 生徒向け自己診断「規律を守りモラルある行動をとっている」の肯定的回答率 90%以上維持 (H30:94%)</p>	遅刻総数 1504 回 (△) 「規律を守りモラルある行動をとっている」96% (◎)
	(3) 学校行事による協調性・協働性の向上	<p>Ⓚ 学校行事の運営を通して、自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに何かを成し遂げる難しさ喜びを学ぶ。</p>	<p>Ⓚ 生徒向け自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答率 90% (H30:87%)</p>	「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答率 89% (△)
3 学校の魅力の向上	(1) 豊かな学校生活を支える活動	<p>Ⓛ 充実した設備を活用した活発な部活動の持続。</p> <p>Ⓜ 生徒会活動の活性化による学校行事や部活動の更なる充実。</p> <p>Ⓝ オーストラリア St ルークス高校との連携の強化による、国際化に対する意識の向上。</p>	<p>Ⓛ 部活動ガイドラインの遵守。生徒向け自己診断「部活動は楽しく充実している」の肯定的回答率 80%以上 (H30:データなし)</p> <p>Ⓜ 生徒向け自己診断「行事は魅力あるものとなるよう工夫されている」の肯定的回答率 75% (H30:68%)</p> <p>Ⓝ 留学に参加した生徒の満足度 95%以上維持 (H30:100%)</p>	(今年度は自己診断項目を変更しなかったため未調査) 「行事は魅力あるものとなるよう工夫されている」71% (△) 留学に参加した生徒の満足度 100% (◎)
	(2) 困り感を持つ生徒への支援体制の充実	<p>Ⓞ 校内における教育相談体制の活用に向けた生徒、保護者への支援体制の周知徹底</p> <p>Ⓟ SC 等の外部人材の活用による教育相談体制、迅速な生徒情報の共有によるサポートのさらなる充実。</p>	<p>Ⓞ 生徒・保護者向け自己診断「相談しやすい環境が整っている」の肯定的回答率生徒 (H30:64%)、保護者 (H30:71%) とともに 80%</p> <p>Ⓟ 中途退学生徒、不登校生徒 0 をめざす。</p>	「相談しやすい環境が整っている」生徒 65% (△)、保護者 73% (△) 中途退学生徒、不登校生徒あり (△)
	(3) 体育・スポーツの拠点校としての体育科の取り組み	<p>Ⓠ 体育科専門授業と活発な部活動を通じて計画力・行動力を育成し、リーダーとしての資質の向上を図る。</p> <p>Ⓡ 活発な部活動による、将来のトップアスリート・競技指導者等の育成。</p>	<p>Ⓠ 授業アンケート「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」の肯定率 95%超維持 (H30:96%)</p> <p>Ⓡ サッカー、ラグビー、バレーボール、男女バスケットボール、硬式テニス、水泳、陸上、いずれの部も前年度以上の成績をめざす。</p>	「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」92% (△)、「知識技能が身についた」93% (△) バレー公立準優勝、女バス公立 3 位、硬テ公立男女 5 位、水泳府優勝近畿 3 位、陸上全国優勝 2 名 (○)
4 学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立	(1) 健全な職場環境の整備	<p>Ⓢ 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止のため、職員がコミュニケーションを取り易い形に職員室のレイアウトを変更、職員室内に生徒対用のカウンタースペースを整備。</p> <p>Ⓣ 将来構想委員会等の活動のさらなる活性化により、業務内容の精選、平準化、効率化を図る。</p>	<p>Ⓢ 教職員向け自己診断「教科内で組織的に授業力向上に取り組んでいる」(H30:67%)、「学校の改善に向けて積極的に取り組んでいる」(H30:68%) とともに 75%。</p> <p>Ⓣ 時間外勤務月間 80 時間を越える教職員の延べ数の減少 (H30:42 名)。 ストレスチェック職場環境評価の改善 (H30:119)。</p>	「教科内で組織的に授業力向上に取り組んでいる」70% (△)、「学校の改善に向けて積極的に取り組んでいる」74% (△) 時間外勤務月間 80 時間越教職員延べ数 35 名 (◎) ストレスチェック職場環境評価 110 (◎)